

## 第2回 SPring-8 データ・ネットワーク委員会議事メモ

日時：令和2年10月2日（金）10:00～11:00

場所：オンライン会議

議題 1: SPring-8/SACLA のデータ・ネットワークインフラの近況と今後の予定について

理化学研究所 放射光科学研究センター 城地研究員から資料1により、SPring-8 のネットワーク高度化、SPring-8 のデータインフラの展望、SACLA のデータ保持運用の変更、リモート実験参加のためのデータ・ネットワークインフラ整備の状況、R-CCS との連携によるデータ転送環境の導入、SINET6 への移行、これらに関して説明があり、以下の質疑応答があった。

質問：現状の SINET5 では 10G 回線 4 本で運用しており、SINET6 では 100G 回線 1 本の運用になる予定とのことだが、現状のネットワーク帯域利用の年次での増え方、サイト内で生成される実験データの増え方、これらを踏まえた今後の見通しのに関する資料はあるか？

回答：現状で資料はありませんが、これからの対応としてデータ圧縮を行う事で、100G 回線に対応を行えるデータ量にコントロールしていく予定です。

コメント：圧縮というのは有効だと思うが、全体的なデータ生成量は把握しておくべき事である。

回答：施設として把握しておくべき項目であるので、情報収集と整理を行います。

質問：SINET に直接接続する組織の課金は、イメージとしてどのくらいとなるのか。

回答：現時点では具体的な物はありません。100G 回線の導入費用から見合いで課金額が決定していく流れで検討しています。

コメント：具体的な数字が分かれば連絡して欲しい。

回答：速やかに連絡します。

議題 2: SPring-8 共用実験データ・ネットワークポリシー等の策定について

理化学研究所 放射光科学研究センター 城地研究員から資料2により、SPring-8/SACLA の利用実験に不可欠である計算機やネットワークシステムの利用や改修を進める上で、本委員会の運用方針と責任体制を明確にする旨、また SPring-8/SACLA の共用実験データ・ネットワークシステム利用・運用における利用者と施設者間の基本的な方針を定めた、基本方針（ポリシー）、規約、ガイドラインの3つについて説明があった。

質問：文書等には共用実験データシステムや共用実験ネットワークと記載されており、「共用」という記載から共用ビームラインにのみ適用される物と理解していたが、専用ビームラインにも適用される物なのか。

回答：ビームライン単位ではなく、施設側で整備する共用実験ネットワークに接続するすべての計算機に対して適用されるという意味合いです。

質問：共用実験データシステムで整備されるストレージシステムは、専用ビームラインでも利用可能な資源と考えて良いのか。

回答：ストレージシステムに関しては、来年度以降にテストベンチが構築されデータ管理の仕組みを構築していくが、その仕組みの範囲内で利用していただく場合は利用可能になります。ただし、利用に際しては無料で利用可能になるのか、どの程度利用料が発生するのか等は現時点では不明になります。

質問：専用ビームラインの場合、ポリシーが定める運用責任者と利用者は誰になるのか。

回答：専用ビームラインに関しては、ポリシーの枠組みに基本的に当てはまりません。ただし、施設側が整備するストレージシステムやネットワークを利用する場合は、ポリシーの枠組みが適用されます。具体的には現在サイト内で回線を整備して外部に直接接続している機関は、ポリシーの枠組みは適当されず、システム管理者のみを設置していただく形になります。

### 議題 3: 委員長の選出について

事務局より、本委員会における委員長の選出について趣旨の説明があった。

全会一致により、理化学研究所 放射光科学研究センター 先端光源開発研究部門 制御情報グループ 後藤俊治グループディレクターが本委員会の委員長に選出された。

以上